教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 准教授　　氏名： 遠藤　純

研究分野	研究内容のキーワード
児童文化学，児童文学，教科教育学	児童文化史，児童文学史，出版史，宮沢賢治，巖谷小波，高尾亮雄（楓蔭）、口演童話，国語教科書，教材論
学位	最終学歴
修士（教育学）	兵庫教育大学大学院学校教育学研究科博士課程単位取得退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.絵本を創作する表現活動を取り入れた実践	2015年04月～現在	絵本を実際に創作する活動を通して、享受する側ではなく表現する主体としての立場から、ことばや絵の持つ表現上の役割及びその特性について理解を深め、文学表現・視覚表現の本質に迫ることを目標としている。
2.絵本およびマンガ分析を取り入れた実践	2015年04月～現在	子どもが日常的に親しんでいる物語環境は、文学のみならず絵本やマンガ、アニメーションなど複数のメディアに渡っている。活字を媒介とする文学表現とはどのような特質を持つメディアか、絵本やマンガの表現様式を詳細に分析することで各メディアによる表現の違いに気づき、比較することで文学表現および視覚表現の特性ついて理解を深めることを目的としている。
3.ＩＣＴ等を活用した授業実践	2015年04月～現在	視覚に訴える教材は学習効果が高く、わかりやすい。それゆえ、自作の教材等をMs-PowerPointで投影し、限られた時間の学習効果をより高めるように工夫している。
4.学生の学習効果促進のための取り組み	2015年04月～現在	児童文化の真の理解のためには、関連する研究施設や資料館等を見学し、そのサービスや機能について知ることが重要である。授業では関連施設での研修を行い、絵本や紙芝居等に関連する文献や情報の収集方法、児童文化財の調査閲覧、稀覯資料に関する実物をふまえた授業を実施し、わが国の児童文化について具体的・総合的に学ぶことを目的としている。
5.授業実践力を高めるための取り組み	2015年04月～現在	授業実践力を高めるために、学生同士で研究授業を実施し、事後研究会を行うことで教育実践力を高めるよう工夫している。特に教材研究、指導案作成、発問を重視し、精緻に準備してから模擬授業を行っている。
2 作成した教科書、教材		
1.授業用教材「児童文学貴重史料書影データベース」（科目名：児童文学研究）	2015年04月～現在	児童文学を研究するためには、児童文学がいかに発生してきたか、史的発生のメカニズムを把握・理解する必要がある。重要な史料は、単に文字で紹介・読むだけでなく、実見することこそが重要な学習活動となる。しかし国内でも稀少なものが多くあり、閲覧困難な場合が多い。そこでこうした史料を電子化して教材とし、実物の書影を見ることでより教育的効果が高められると考え、教材を作成した。
2.授業用教材「子どもの本クイズ　翻訳文学篇」の作成および活用	2015年04月～現在	絵本、幼年童話や児童文学をより身近に感じ、興味を持ってもらうために、誰もが知っている作品の知られざる一面をクイズ形式で出題し、それに併せて授業内容を入れ込む教材（Ms-PowerPoint）を作成した。今後は絵本篇、マンガ篇、ファンタジー文学篇、リアリズム篇など、バリエーションを増やしていきたいと考えている。
3.『子どもの本100問100答』（創元社）	2013年08月～現在	初等科教育法（国語）、国語教育（書写を含む）、児童サービス論、児童文化論等のテキストとして編集・執筆。
4.『児童文化と子ども文化』（港の人）	2012年09月～現在	保育内容言葉、児童文化・児童文学関係のテキストとして編集・執筆。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
5.『はじめて学ぶ日本の戦争児童文学』（ミネルヴァ書房）	2012年04月～現在	国語科教育・児童文化・児童文学関係のテキストとして執筆。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.京都華頂大学公開講座	2018年02月03日	「華頂界隈と京都の児童文化～児童文化の黎明　その源流をさぐる～」と題した講演。
2.私立大学図書館協会京都地区協議会主催講演会 講師	2014年11月14日	大学図書館関係者向けの講演「児童文化関連資料の収集と保存～その意義と役割～」（私立大学図書館協会京都地区協議会）
4 その他		
1.教員採用試験対策講座	2019年04月～現在	教員採用試験対策として、夏期休暇中に教育学科の学生を対象として、面接・集団討論・小論文・模擬授業などの指導を実施した。
2.附属高校での特別授業「名作絵本のトリビア ～その誕生の歴史に迫る」の実施	2019年02月05日	本学附属高校との連携事業として、特別講義に赴き、高校2年生向けに絵本などの児童文化講座を実施した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.小学校教諭専修免許状	1993年04月	
2.幼稚園教諭専修免許状	1993年04月	
3.養護学校教諭一種免許状	1991年04月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.子ども向け物語件名のありようを考える―大阪国際児童文学振興財団の実践を通して	2019年3月23日	日本図書館研究会、情報組織化研究グループ月例研究会における報告。子ども向け図書検索システム「本の海大冒険」および「ほんナビきっず」では、物語件名体系表を搭載し、検索できるようにしている。これは児童書における物語件名はどうあるべきかを共同研究として実施した結果であるが、課題も多い。本報告では、物語件名体系表を作成するにいたった経緯、実際の体系表、他の件名表との比較、課題等について述べることによって、参加者との意見交流を行い、物語件名のありようについて考えたい。
2.講演「京都の児童文化～児童文化の黎明 その源流をたどる」	2018年12月05日	一般向けの講演「京都の児童文化～児童文化の黎明 その源流をたどる」（城陽市教育委員会主催　城陽市民大学「教育コース」）
3.講演「宮沢賢治　童話の世界～心象の原風景～」	2017年06月10日	一般向けの講演「宮沢賢治　童話の世界～心象の原風景～」（主催：ライフマップネットワーク研究会、愛日会館）
4.講演「賢治の魅力－そのこわさを読み解く－　作品「風の又三郎」を中心に」	2016年12月17日	一般向けの講演「賢治の魅力－そのこわさを読み解く－作品「風の又三郎」を中心に」（大阪府立中央図書館）
5.講演（対談）「宮川健郎さんに聞く　賢治の世界の魅力」	2016年11月17日	一般向けの講演会「宮川健郎さんに聞く　賢治の世界の魅力」（大阪府立中央図書館）で対談者を務めた。
6.講演「日本のアンデルセンが残したもの～明治期の児童文学者・巖谷小波の仕事～」	2016年10月25日	一般向けの講演「日本のアンデルセンが残したもの～明治期の児童文学者・巖谷小波の仕事～」（枚方市サンプラザ生涯学習市民センター）
7.講演「日本の児童文学作品を読む」	2015年11月23日	児童文化関係者向けの中級講座で、「日本の児童文学作品を読む」と題した講演を行った。（枚方市サンプラザ生涯学習市民センター）
8.講演「宮澤賢治　童話作家としての道程」（枚方市生涯学習市民センター）	2015年03月15日	一般向けの講演「宮澤賢治　童話作家としての道程」（枚方市生涯学習市民センター）
9.講演「尼崎市中央市民大学専門講座　第一回」	2014年11月18日	一般向けの講演「新美南吉 その生涯と作品 ～異なる者の魂の共鳴～」（尼崎市中央市民大学専門講座　第一回）
10.講演「尼崎市中央市民大学専門講座　第二回」	2014年11月09日	一般向けの講演「宮澤賢治 その生涯と作品 ～童話の原風景をたどる～」（尼崎市中央市民大学専門講座　第二回）

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.子どもの文化演習ブック	共	2022年4月10日	ミネルヴァ書房	第１章「子どもの文化の歴史」を執筆。
2.よくわかる児童文化	共	2020年11月	ミネルヴァ書房	大人が与える児童文化財だけでなく、子どもがつくりだす文化や衣食住を含む環境にも目をむけ、幅広い視点から子どもとは何かを探る体系的な児童文化入門書。テキストとして編集。 第６章「児童文化財」の４節「児童文学①概説（概念・対象・条件・分野）」５節「児童文学②日本児童文学」11節「口演童話」および第10章「子どもをとりまく施設」の3節「児童図書館・児童図書室」を執筆。
3.日本児童文学文献目録　2000～2019	単	2019年10月19日	日外アソシエーツ	2000年から2019年までの、日本児童文学に関する研究文献を網羅した目録。日本および海外の児童文学に関する国内での研究動向・成果を網羅的に把握でき、「事項名索引」「著者名索引」「収録誌名一覧」を付した。加えて、日本および海外の児童文学に関する国内での研究動向・成果をまとめ、基本的な文献を紹介した。
4.あまんきみこハンドブック	共	2019年9月30日	三省堂	小学校国語科教科書に作品が多く掲載されているあまんきみこ作品について、あらゆる観点から分析した入門書。作品論やキーワードからみるあまん作品を担当。
5.日本児童文学文献目録　1945～1999年	単	2019年9月25日	日外アソシエーツ	1945年から1999年までの、日本児童文学に関する研究文献を網羅した目録。掲載文献は23000件に及び、事項および著者名索引を付した。加えて、日本および海外の児童文学に関する国内での研究動向・成果をまとめ、基本的な文献を紹介した。
6.『ひとりでよめたよ！幼年文学おすすめブックガイド200』	共	2019年6月30日	評論社	絵本から幼年文学への橋渡しとなる児童文学作品を紹介するブックガイド。全200作品のうち、9作品を担当。
7.『赤い鳥事典』	共	2018年08月	柏書房	大正期に創刊された雑誌「赤い鳥」の最新の研究成果を網羅した初の総合事典。複数の人名・作品・事項などの項目を執筆。
8.『子どもの本100問100答』	共	2013年8月	創元社	子どもの本に関わる質問や疑問を100問にまとめて答えた「子どもの本ハンドブック」。図書館、家庭文庫や読書推進に関わる諸団体のための手軽で便利な相談ツールとして編集。必要に応じてどの質問からでも読め、通読すると子どもの本の世界を体系的に学べるようにもなっている。
9.『藤子・Ｆ・不二雄大全集　ぴーたーぱん』	単	2013年8月	小学館	藤子不二雄のマンガ「ぴーたーぱん」の解説。藤子の初期作品のうち、世界名作をマンガ化した「ぴーたーぱん」の復刻とその解説を担当。
10.『児童文化と子ども文化』	共	2012年9月	港の人	1960年代の〈児童文化〉論から、80年代以降の〈子ども文化〉論への変貌に着目し、その変容から児童文化の本質を捉え直す試み。本書の企画編集および複数の文献解題を担当。
11.『はじめて学ぶ日本の戦争児童文学』	共	2012年4月	ミネルヴァ書房	第17章「日本児童文学に描かれた疎開」担当。これまで日本の戦争児童文学において、学童疎開がいかに描かれ、取り上げられてきたか、その内容と特質をまとめた。
12.『児童文化の原像と芸術教育』	共	2011年7月	港の人	教育学的視点から、また社会学的観点から総合的に児童文化を捉え直し、その歴史的変容のプロセスを検証する試み。本書において、児童文化、生活綴方、国語科教育等に関する複数の文献解題を担当。
13.『宮沢賢治イーハトヴ学事典』	共	2010年12月	弘文堂	自然科学、宗教、哲学、博物学など、宮沢賢治の作品世界を支えるすべてを網羅する事典。項目「戦後の享受・評価（童話）」執筆。
14.『ものから読み解く世界児童文学事典』	共	2009年9月	原書房	日本・外国（英米、カナダ、オーストラリア、独、仏、北欧、アジアなど）の創作児童文学作品に出てくるさまざまな「モノ」（食べ物、道具、身につけるモノ、家具・調度品、生き物、植物など）に着眼し、モノを歴史的に分析することで見えてくる作品の本質に迫った事典。
15.『宮沢賢治大事典』	共	2007年7月	勉誠出版	宮沢賢治作品の源泉である、関連人物、音楽、宗教、星座、鉱物、植物、地名などを網羅する事典。「蜘蛛となめくぢと狸」「洞熊学校を卒業した三人」「馬の頭巾」担当。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
16.『たのしく読める日本児童文学 【戦後篇】 』	共	2004年04月	ミネルヴァ書房	明治維新から昭和初期にかけて出版された、子ども向け科学読み物から理論書まで、その読み方や時代背景などを紹介した。戦後篇の作品を担当。
17.『たのしく読める日本児童文学 【戦前篇】 』	共	2004年04月	ミネルヴァ書房	明治維新から昭和初期にかけて出版された、子ども向け科学読み物から理論書まで、その読み方や時代背景などを紹介した。戦前篇の作品を担当。
18.『宮沢賢治の全童話を読む』（『国文學』解釈と教材の研究48巻3号、2月臨時増刊）	共	2003年2月	學燈社	賢治の約140に及ぶ童話作品の1篇1篇について、研究史をふまえながら最新の〈読み〉を紹介した研究書。「種山ヶ原」「さるのこしかけ」「畑のへり」の３作品を担当。
19.『はじめて学ぶ日本児童文学史』	共	2002年4月	ミネルヴァ書房	第９章「宮沢賢治―童話の源泉―」担当。賢治の生涯をたどりながら、その類稀な作品の源泉にあるものとして宗教的情操、父との対立、当時の厳しい東北の風土を指摘。以上が投影された作品の特質を検討した。加えて、日本の児童文学史における賢治受容のありようを整理検討した。
20.『「豆の木」復刻本解説書』	共	1998年11月	大阪書籍	現代児童文学史上、記念碑的な同人雑誌である同誌について、佐藤さとるやいぬいとみこなど、その後現代児童文学のスタートに大きな役割を果たす作家の創作活動の全貌を調査・年譜化した。加えて、同誌『豆の木』に関する最新参考文献目録を作成。一部言及をも含め、同誌に言及するすべての文献を紹介した。
21.『日本児童文学大事典』	共	1995年7月	大日本図書	日本の近代児童文学・児童文化のすべての人名、事項、雑誌、叢書等を網羅する初の事典。人名、雑誌、叢書などを担当。
2 学位論文				
1.宮沢賢治童話研究―児童出版との関わりを中心に―	単	1993年3月	修士学位論文	戦時下及び戦後における宮沢賢治童話集（児童書）の成立を児童文学史の観点から考察する試み。賢治童話の子どもの文学としての評価の変遷を辿り、その系譜を児童文学史上に位置づけるとともに、賢治童話集の成立背景を中心に、賢治作品収録に至る経緯や史的意味、刊行者・編者・企画者の出自に関連する事項について考察・検討した。賢治作品に見いだされた子どもの文学としての可能性や、時代が求めた＜賢治＞像とその意味の分析を行ったものである。
3 学術論文				
1.巌谷小波のお伽噺「猿と蟹」について―〈語る〉童話と〈書く〉童話の比較と考察―（査読付）	単	2025年3月31日発行予定	『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第38号（掲載予定）	巌谷小波は、明治36年頃より童話の口演をはじめ、その活動は没する直前にまで及んだ。当初、小波は口演に消極的であったが、大日本婦人教育会での定例口演、お伽倶楽部での口演活動等を機に〈語る〉童話と〈書く〉童話の違いに触れ、口演を積極的に著作に取り入れながら、雑誌愛読者大会などの地方巡講（お伽口演）に積極的に取り組んだ。本研究の目的は、〈語り〉を含め、小波にとって語る童話（口演）と書く童話（著述）の関係はいかなるものであったのかを解明することにある。本稿では、初期の小波お伽噺「猿と蟹」を取り上げ、口で語られた作品（速記録）と活字で読むものとして著述された作品を比較し、両者の特質を探る試みである。
2.雑誌『小国民』（学齢館）および『少年世界』（博文館）における口絵 ― 明治二八～三〇年の掲載内容 ―	単	2025年3月31日発行	日本児童文学学会紀要『児童文学研究』57号	
3.宮沢賢治ビブリオグラフィー2023	共	2025年3月発行	宮沢賢治学会『宮沢賢治研究Annual』34号	宮沢賢治に関する網羅的な研究文献目録。図書や雑誌、新聞などの宮沢賢治関連記事を対象とし、各文献に要約を付す。分担執筆。
4.日本児童文学研究文献目録―2023年―	単	2025年3月発行	日本児童文学学会紀要『児童文学研究』57号	児童文化・児童文学・国語科教育に関する、2023年の研究・参考文献目録。
5.明治期における巌谷小波のお伽口演活動―巌谷家所蔵絵葉書および関連資料からの検証―（査読付）	単	2024年3月31日	『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第37号	作家・巌谷小波が行った児童文化活動の一つとして、子どもや大人に向けた講演（および口演）活動がある。長期に渡り、国内外にて膨大な回数が実施されたこれら活動の実態については、これまでは精緻に検証されたことはない。論者は、小波の〈語る〉行為が〈書く〉行為にも影響を与えたという立場に立ち、具体的に両者がどの

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				ような相関関係にあったのかを検証していくことをめざしている。本稿は、その手始めとして、小波自筆の絵葉書や日記、書簡、または当時の雑誌記事など関連資料に記載された口演活動記録を網羅的に抽出し、それらを照合することで小波のお伽口演活動の実相を検証するものである。
6.「高尾亮雄（楓蔭）の研究 ―巖谷小波との接点を中心に―」（査読付）	単	2024年3月31日	『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第37号	関西の初期社会主義演劇に関与し、その後児童文化に転じた児童文学者・高尾亮雄の研究論文。これまでの研究成果を整理検討し、本稿では主として高尾の経歴にスポットをあて、社会主義演劇から児童文化活動へ向かうようになった素地について論じるとともに、その起点に同郷の児童文学者・巖谷小波の存在があったことを指摘した。
7.日本児童文学研究文献目録―2022年―	単	2024年3月15日	日本児童文学学会紀要『児童文学研究』56号	児童文化・児童文学・国語科教育に関する、2022年の研究・参考文献目録。
8.戦時下、ある文学者が子どもに向けたまなざし―山本有三編「日本少国民文庫」のこと―	単	2023年12月6日46巻1号	『すばる』（集英社）	昭和10年から刊行が始まった山本有三編「日本少国民文庫」（新潮社）は、吉野源三郎『君たちはどう生きるか』を収録するなど、今日まで読み継がれる記念碑的作品を産みだした。本研究は、この叢書に当時一般的には無名であった宮沢賢治の作品が複数収録されていることを取り上げ、先駆的な作品収録の背景にある賢治評価の一面を検証するものである。
9.宮沢賢治ビブリオグラフィー2022	共	2023年3月31日33号	『宮沢賢治研究Annual』33号（宮沢賢治学会）	宮沢賢治に関する網羅的な研究文献目録。図書や雑誌、新聞などの賢治関連記事を対象とし、各文献に要約を付す。分担執筆。
10.「少年少女雑誌における”挿絵”―明治大正初期の雑誌と画の役割―」	単	2023年3月31日	『清方が描いた子どもの世界　―『少年世界』『少女世界』『少年界』『少女界』掲載口絵等所収―』掲載（鏑木清方記念美術館：編集発行）	日本の児童雑誌史における画の役割について、明治期の「少年園」「小国民」「少年世界」などから分析した論考。
11.日本児童文学研究文献目録―2021年―	単	2023年3月15日	日本児童文学学会紀要『児童文学研究』55号	児童文化・児童文学・国語科教育に関する、2021年の研究・参考文献目録。
12.日本児童文学研究文献目録―2020年―	単	2022年3月15日	『児童文学研究』54号（日本児童文学学会）	児童文化・児童文学・国語科教育に関する、2020年の研究・参考文献目録。
13.賢治童話における〈学校〉〈教員〉－「鳥箱先生とフゥねずみ」を中心に－（査読付）	単	2021年3月31日	『学校教育センター紀要』第6号 武庫川女子大学学校教育センター	
14.日本児童文学研究文献目録―2019年―	単	2021年3月15日	『児童文学研究』53号（日本児童文学学会）	児童文化・児童文学・国語科教育に関する、2019年の研究・参考文献目録。
15.雑誌「少年」（時事新報社）細目（八）	単	2020年3月31日	『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』33号	時事新報社刊の雑誌「少年」（明治36年10月創刊）の細目。前号に続き251号より276号までを収録。今号をもって完結した。【査読あり】
16.日本児童文学研究文献目録―2018年―	単	2020年3月15日	『児童文学研究』52号（日本児童文学学会）	児童文化・児童文学・国語科教育に関する、2018年の研究・参考文献目録。
17.雑誌「少年」（時事新報社）細目（七）	単	2019年3月31日	『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』32号	時事新報社刊の雑誌「少年」（明治36年10月創刊）の細目。前号に続き211号より250号までを収録。【査読あり】
18.日本児童文学研究文献目録―2017年―	単	2019年3月15日	『児童文学研究』51号（日本児童文学学会）	児童文化・児童文学・国語科教育に関する、2017年の研究・参考文献目録。
19.雑誌「少年」（時事	単	2018年3月	『大阪国際児童文	時事新報社刊の雑誌「少年」（明治36年10月創刊）の細目。前号に

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
新報社）細目（六）		31日	学振興財団 研究紀要』31号	続き121号より記載。 【査読あり】
20.日本児童文学研究文献目録―2016年―	単	2018年3月15日	『児童文学研究』50号（日本児童文学学会）	児童文化・児童文学・国語科教育に関する、2016年の研究・参考文献目録。
21.雑誌「少年」（時事新報社）細目（五）	単	2017年3月31日	『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』31号	時事新報社刊の雑誌「少年」（明治36年10月創刊）の細目。 【査読あり】
22.近代日本児童出版文化史の研究　明治期における博文館出版文化との特質と内容（査読付）	単	2017年3月31日	『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』30号	科学研究費（平成26～28年度）での研究成果をふまえ、今後の見通しや課題をまとめた論考。 【査読あり】
23.日本児童文学研究文献目録―2015年―	単	2017年3月15日	『児童文学研究』49号（日本児童文学学会）	児童文化・児童文学・国語科教育に関する、2015年の研究・参考文献目録。
24.『少年世界』主筆としての巌谷小波―その編集者意識について―（査読付）	単	2016年3月31日	『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』29号	作家としてではない、雑誌編集者としての巌谷小波について焦点を宛て、主として彼の日記から『少年世界』の編集に関する記述を抜き出すことで、その編集者意識について検討した。 【査読あり】
25.日本児童文学研究文献目録―2014年―	単	2016年1月21日	『児童文学研究』48号（日本児童文学学会）	児童文化・児童文学に関する、2014年の研究・参考文献目録。
26.巌谷小波のお伽口演に関する覚え書き―南部新一（新井弘城）宛　巌谷小波書簡から―（査読付）	単	2015年3月31日	『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』28号	我が国において、はじめて童話口演をしたとされる巌谷小波について、その経緯を当時の雑誌等から探るとともに、小波が口演各地から発信した自筆葉書の分析を通してその実態に迫った。 【査読あり】
27.日本児童文学研究文献目録―2013年―	単	2015年2月	『児童文学研究』47号（日本児童文学学会）	児童文化・児童文学に関する、2013年の研究・参考文献目録。
28.日本児童文学研究文献目録―2012年―	単	2014年2月	『児童文学研究』46号（日本児童文学学会）	児童文化・児童文学に関する、2012年の研究・参考文献目録。
29.新井弘城（南部新一）宛　巌谷小波書簡について（査読付）	単	2013年3月31日	『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』26号	南部新一旧蔵資料のうち、近代児童文化の創始者とされる巌谷小波発信の書簡について調査・分析した。 【査読あり】
30.日本児童文学研究文献目録―2011年―	単	2013年2月	『児童文学研究』45号（日本児童文学学会）	児童文化・児童文学に関する、2011年の研究・参考文献目録。
31.児童書を分類するキーワードの特徴－DEMATEL法によるキーワードの分析－	共	2012年9月	『第28回ファジィシステムシンポジウム講演論文集』 日本知能情報ファジー学会	児童書を分類・検索するためのキーワードデータの特徴について、実際に活用されているデータを分析することでそのあり方を検証した。
32.雑誌「少年」（時事新報社）細目（四）	単	2012年3月	『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』25号	時事新報社刊の雑誌「少年」（明治36年10月創刊）の細目。 【査読あり】
33.Comparison of Keywords Freely Inputted by Users and the Compendium of “Keywords for Children,” Which is Programmed into the Book Searching System	共	2012年3月	Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics, Vol.16, No.2, 2012	子ども向け図書検索システムの研究。子どもにとってより使いやすい図書検索システムおよび書誌キーワードとはどうあるべきか、利用者である子どもの操作ログから検証を行い、分析した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
for Children				
34.日本児童文学研究文献目録―2010年―	単	2011年12月	『児童文学研究』第44号（日本児童文学学会）	日本児童文学に関する、2010年の研究・参考文献目録。
35.子ども向け図書検索システムに搭載した子ども向けキーワード体系表の検証―利用者による操作からの検証―	共	2011年9月	『第27回ファジィシステムシンポジウム講演論文集』（日本知能情報ファジー学会）	子ども向け図書検索システムに登載した物語キーワード体系表について、その有効性を検証するとともに、今後のありようについて分析した。
36.子ども向け図書検索システムに搭載した子ども向けキーワード体系表の検証―利用者による操作からの検証―	共	2011年9月	『第27回ファジィシステムシンポジウム講演論文集』（日本知能情報ファジー学会）	子ども向け図書検索システムに登載した物語キーワード体系表について、その有効性を検証するとともに、今後のありようについて分析した。
37.「本の海大冒険」（子ども向け図書検索システム）に搭載した子ども向けキーワード体系表と利用者の入力したキーワードの比較	共	2010年9月	『第26回ファジィシステムシンポジウム講演論文集』（日本知能情報ファジー学会）	子ども向け図書検索システムの活用ログを検証し、実際にどのようなキーワード検索が行われているかを調査し、頻度の高いキーワードと書誌に付与されたキーワードを比較することにより、今後の作成について提言した。
38.日本児童文学研究文献目録―2009年―	単	2010年9月	『児童文学研究』第44号（日本児童文学学会）	日本児童文学に関する、2009年の研究・参考文献目録。
39.『少年世界』における時事問題の扱われ方（査読付）	単	2010年3月	『国際児童文学館紀要』第23号	明治期を代表する雑誌『少年世界』に掲載されている時事問題を分析・分類し、雑誌というメディアを通じて当時の〈少年〉に時事問題がどのように届けられたのかを考察した。 【査読あり】
40.日本児童文学研究文献目録―2008年―	単	2009年9月	『児童文学研究』第43号（日本児童文学学会）	日本児童文学に関する、2008年の研究・参考文献目録。
41.山本有三編『日本少国民文庫』と島崎藤村編『新日本少年少女文庫』に関する一考察（査読付）	単	2008年12月	『Fairy Tales and Transration』VOL.16 2008（Konkuk University）	ともに新潮社より戦時下に刊行された山本有三編「日本少国民文庫」と島崎藤村編「新日本少年少女文庫」について、当時の児童文化統制の動きのなかでの歴史的位置や意義、両者の位置関係を整理して、有三と藤村の児童文化への関わりを検証した。 【査読あり】
42.日本児童文学研究文献目録―2007年―	単	2008年9月	『児童文学研究』第42号（日本児童文学学会）	日本児童文学に関する、2007年の研究・参考文献目録。
43.雑誌「少年」（時事新報社）細目（三）	単	2008年3月	『国際児童文学館紀要』第21号	時事新報社刊の雑誌「少年」（明治36年10月創刊）の細目。前号に続き71号より記載。 【査読あり】
44.日本児童文学研究文献目録―2006年―	単	2007年12月	『児童文学研究』第41号（日本児童文学学会）	日本児童文学に関する、2006年の研究・参考文献目録。
45.雑誌「少年」（時事新報社）細目（二）	単	2007年3月	『国際児童文学館紀要』第20号	時事新報社刊の雑誌「少年」（明治36年10月創刊）の細目。前号に続き41号より記載。 【査読あり】
46.日本児童文学研究文献目録―2005年―	単	2006年12月	『児童文学研究』第40号（日本児童文学学会）	日本児童文学に関する、2005年の研究・参考文献目録。
47.雑誌「少年」（時事新報社）細目（一）	単	2006年3月	『国際児童文学館紀要』第19号	時事新報社刊の雑誌「少年」（明治36年10月創刊）の細目。 【査読あり】
48.ファンタジー・ブームの中で問い直される〈児童文学〉	単	2004年6月	『日本児童文学』第50巻第3号、日本児童文学者協会編	
49.インターネットと児	単	2004年2月	『日本児童文学』	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
童文学研究			第50巻第1号、日本児童文学者協会編	
50.児童文学及び国語教育における宮沢賢治研究・実践文献目録（査読付）	共	2002年3月	『国際児童文学館紀要』第17号	宮沢賢治に関わる文献データベースでは、宮沢賢治学会『宮沢賢治研究ANNUAL』がすべての文献を網羅的に登載し、かつ客観的な要約を付したものとして定評がある。しかし、国語教育分野、とりわけ教育現場での実践報告や実践事例などはその収集範囲から除外されている。以上の分野を補完するため、賢治作品の教材化・実践の動向を把握するデータベースを構築した。
51.『日本少国民新聞』細目と解題―山本有三編『日本少国民文庫』考察のために―	単	2001年3月	『児童文学研究年報』第10号	『日本少国民新聞』（新潮社）は、昭和10年11月より刊行された山本有三編『日本少国民文庫』の付録・月報としての役割を備えて刊行された児童向新聞である。本誌はこれまで稀覯資料のため取り上げられる機会を持たなかったが、本稿ではその細目を掲載、解題を加えた。とりわけ、本体である『日本少国民文庫』の成立や、その同時代評としての資料的価値は高く、無視できないことを指摘、詳細に分析した。pp.1-12
52.戦時下における宮沢賢治の受容―大陸開拓と松田甚次郎―（査読付）	単	2001年3月	『国際児童文学館紀要』第16号	旧満州において、宮沢賢治の「農民芸術概論綱要」が理想化されようとしていたという事実が確認されている。本稿では、松田甚次郎が果たした役割を中心に、賢治の理念が実現されるに至ったプロセスを検証。当時、満州開拓の国内基地となった日本国民高等学校と、その組織の中核となった加藤完治の大陸雄飛思想が賢治の作品と結びついていく点について考察した。pp.56-68
53.賢治の用いたことば―童話集『注文の多い料理店』の語彙分類から―	単	2000年12月	大阪国際児童文学館共同研究報告集	文学作品分析のための汎用性データベース作成に関わる研究報告。作品分析の資料として作成したデータを統計処理し、普通名詞の語彙頻度をカテゴリー分類した結果を分析した。『注文の多い料理店』において賢治が用いた普通名詞をサンプルとし、それらをすべて抽出した用例（5646例）を対象とした。作成した機械可読テクスト（machine readable text）を用い、用例抽出・集計・統計などの処理をベースに、それらを新たに意味づける「読み」の可能性を追求した。
54.山本有三編「日本少国民文庫」の成立と宮沢賢治―『人類の進歩につくした人々』の検討を中心に―（査読付）	単	1999年11月	『児童文学研究』第32号（日本児童文学学会）	昭和10年11月より刊行が開始された山本有三編「日本少国民文庫」の成立について考察、叢書中の一編『人類の進歩につくした人々』に賢治作品「雨ニモマケズ」が収録されたこととの相関を探り、賢治の同時代評の一端を明確化した。pp.16-27 【査読あり】
55.羽田書店版『風の又三郎』の成立に関する考察（2)―『土に叫ぶ』との関連を中心に―（査読付）	単	1998年3月	『国際児童文学館紀要』第13号	前稿「羽田書店版『風の又三郎』成立に関する考察－その出版に携わった人々－」では、出版に携わった羽田武嗣郎、上泉秀信、坪田譲治の果たした役割について論究したが、本稿では企画の中核となった羽田を中心にその動機についてさらに詳細に検討を行った。岩波書店の店主、岩波茂雄と懇意であった羽田は、出版事業の企画面で同書店から全面的な支援を受けていた事実を指摘。松田甚次郎『土に叫ぶ』や賢治童話についても、その延長に位置づけられることを論及した。
56.小学校国語教科書における賢治童話―教材『どんぐりと山猫』を中心に―（査読付）	単	1997年3月	『言語表現研究』第13号（兵庫教育大学言語表現学会）	戦後における賢治童話の受容史は、文部省発行の暫定教科書（昭和21年11月）を嚆矢とする。そこに登載された教材「どんぐりと山猫」の本文を、ほぼ同時期に発行された国定第六期版（22年1月）、「教育出版」社版（29年4月）をも含めて取り上げ、いかなる意図のもとに、どのようなテクストでの教材化であったのか、その実態の把握と改作箇所の具体的検討を行った。さらに、現在までの教科書登載賢治教材の一覧表を作成、賢治教材史変遷の特質を指摘した。 【査読あり】
57.槙本楠郎編『現代童話集』の成立と賢治童話―『なめとこ山の熊』収録をめぐって―（査読付）	単	1997年3月	『国際児童文学館紀要』第12号	昭和9年7月の『現代童話集』に「なめとこ山の熊」が収録された。賢治童話を収める公刊の童話集としては最も早く、初掲載と言われる十字屋版全集に先駆けるものである。賢治否定論で知られる、当時の児童文学界の理論的支柱槙本楠郎編集によるこの童話集には、児童文壇の主要作家が多数寄稿している。本稿では、草野心平と親交の深かった詩誌『銅鑼』同人・土方定一を軸に、賢治収録の背景・経緯を整理・検討した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
58.戦後における賢治童話集出版をめぐる動向―桜井書店［少年のための純文学選］の検討を手がかりに―（査読付）	単	1996年3月	『言語表現研究』第12号（兵庫教育大学言語表現学会）	戦後における賢治童話集の出版と、賢治の受容状況の関連を考察。昭和22年より刊行された叢書［少年のための純文学選］は、志賀直哉『小僧の神様』をはじめに計15冊を刊行、賢治童話集『カイロ団長』を送出した。文壇作家中心で編まれたこの叢書に、賢治童話が収録されたことの意義について考察、またここに現代につながる賢治評価の萌芽が見られる点を指摘した。【査読あり】
59.淡路呼潮の児童文学―探偵小説を中心に―（査読付）	単	1996年3月	『国際児童文学館紀要』第11号	これまで顧みられることは少なかったが、探偵小説や歴史講談などの大衆児童文学の分野に確かな足跡を残す淡路呼潮の経歴と、彼の児童文学の特質について論じた。とりわけ、呼潮の作品の意義は少年科学探偵小説にあり、これは三津木春影や永島永洲に始まり、後の小酒井不木に通じる、その大衆児童文学の系譜の中に明確に位置づけることができることを検証した。
60.羽田書店版『風の又三郎』成立に関する考察―その出版に携わった人々―	単	1995年9月	『賢治研究』第61号（宮沢賢治研究会）	賢治の死後、公刊としては初めての個人童話集である羽田書店版『風の又三郎』（昭和14年12月）の成立に関する考察を通して、賢治の同時代評を明らかにしようとした論稿。とりわけ、＜児童文学＞という視点が持ち込まれたことの必然性や、その史的意味を考察の対象とし、当時の賢治受容の状況に言及した。
61.賢治童話と児童出版との関連についての考察―日本書院［太陽と草の本］を中心に―	単	1993年3月	『児童文学研究年報』第7号、兵庫教育大学向川研究室	
62.児童文学研究文献についての情報分析及びその研究	共	1993年3月	『国際児童文学館紀要』第8号	日本で出版された児童文学研究文献を収集・記録、内容分析の方法を研究し、その記録と分析結果を報告した論文。
63.宮沢賢治『貝の火』小考	単	1992年3月	『児童文学研究年報』第6号、兵庫教育大学向川研究室	
64.子どもに手渡せるか『高志と孝一』	単	1991年11月	『現代児童文学批評』創刊号、兵庫教育大学向川研究室	
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.『小国民』（学齢館）および『少年世界』（博文館）における口絵－明治28～30年の掲載内容－	単	2024年12月1日	日本児童文学学会第63回研究大会シンポジウム（京都華頂大学）	「近代日本の児童文学を彩ったもの－口絵・挿絵の世界－」と題したシンポジウムにての研究発表。
2.日本における宮沢賢治の受容と作品世界	単	2008年6月	建国大学（韓国・ソウル）2008年度国際学術大会ゲストスピーカー	おもに昭和初年から終戦までの日本児童文学における宮沢賢治の受容史を概観し、その接点のありようから日本の児童文学と賢治作品の特色を考察した。
2．学会発表				
1.巌谷小波のお伽口演活動の実態について―絵葉書および関連資料から―	単	2023年11月18日	日本児童文学学会研究大会（武蔵野大学）	日本児童文学学会におけるラウンドテーブル「巌谷小波の絵葉書から見えてくるもの：旅と家族と幅広いネットワーク状況をたどる」における研究発表。
2.高尾亮雄（楓蔭）の研究　―巌谷小波との関係を中心に―	単	2019年11月24日	日本児童文学学会研究大会（白百合女子大学）	関西を中心とした児童文化活動において、高尾亮雄の存在は無視できない。しかし、高尾についてはその出自に不明な点が多く、いまだ十分な研究が行われているとは言えない。そこで、本発表では特に同郷である巌谷小波との関連を中心に、高尾の出自や伝記的事項について述べ、『児童』『児童愛護』『子供と語る』等の雑誌調査から彼の児童文化活動の一端を明らかにした。
3.博文館の児童出版物がめざしたもの―明治期における出版、教育、雑誌メディア	単	2015年11月8日	第54回日本児童文学学会ラウンドテーブル	巌谷小波の編集者意識について、主として『少年世界』創刊における構想を小波の日記から抽出、検証した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
の視点から― （基調報告：『少年世界』主筆としての巌谷小波―その編集者意識について―）				
4.南部新一書簡から見えてくるもの－博文館に関わる人々とのやりとりを中心に	単	2012年10月	第51回　日本児童文学学会ラウンドテーブル	巌谷小波のもと、博文館で雑誌編集を行った南部新一旧蔵の書簡から、当時の出版文化や教育のありようを探るラウンドテーブル。巌谷小波の書簡の分析を担当し、発表した。
5.『少年世界』の総合的研究―『少女世界』創刊の影響	単	2010年11月	第49回　日本児童文学学会ラウンドテーブル	雑誌『少年世界』の特質を、同時代の姉妹誌『少女世界』との比較から検証し、考察した。
6.雑誌『少年世界』（博文館）から見えてくるもの	単	2009年10月	第48回　日本児童文学学会ラウンドテーブル	日本で初めての本格的な少年雑誌『少年世界』を取り上げ、巌谷小波の編集意識や欄構成、口絵、投稿、広告等を総合的に分析し、同時代の雑誌編集のありよう、雑誌というメディアを通して子どもたちに何が発信されていたのかを考察した。
7.日本における宮沢賢治の受容と作品世界	単	2008年6月	建国大学（韓国・ソウル）2008年度国際学術大会招聘発表	おもに昭和初年から終戦までの日本児童文学における宮沢賢治の受容史を概観し、その接点のありようから日本の児童文学と賢治作品の特色を考察した。
8.「日本少国民文庫」と「新日本少年少女文庫」に関する一考察	単	2007年10月	第46回　日本児童文学学会研究大会	山本有三編「日本少国民文庫」（新潮社）は、昭和17年に「改訂・日本少国民文庫」（以下、改訂版）の刊行を開始し、その一方で同時期に同社は「新日本少年少女文庫」（島崎藤村編）なる叢書を刊行する。装幀・判型とも改訂版のコピーだが、しかしその内容は逆に、有三が打ち出した人間愛の方向性を大きく反転する。本発表では、上記叢書の内容等を整理・検討しつつ、叢書に冠された「少国民」や「少年少女」の語義も視野に入れながら、両者がどのように位置づけられるべきか、当時の編集経緯などから考察した。
9.児童図書に対する司書の感性評価に関する研究―読書ナビゲーションのための基礎的研究―	共	2006年9月	第8回　日本感性工学会	中山伸一（筑波大学図書館情報メディア研究科）との共同発表。児童・生徒の読書活動を支援するため、共同研究チームでは児童・生徒が楽しみながら種々のアプローチにより図書を探すことのできる読書ナビゲーションシステムの開発を行った。そのアプローチの一つとして、読後感情による検索方法を考案、その成果と課題を発表した。
10.戦時下における宮沢賢治の評価について	単	2000年10月	第39回　日本児童文学学会研究大会	昭和十年代、土への回帰が声高に主張された社会状況のなかで、賢治は農村文化発展の旗印として様々な形で取り上げられるようになる。近年、賢治の農民芸術論が満州において理想化されようとしていたことが明らかになっているが、以上は理想郷としての満州に賢治の作品が思想的な枠組みを与えられた例として興味深い。児童文学の世界においても、以上に見られる賢治受容の影響を有形無形に受けながら、独自の賢治受容の形態が生まれていく。本発表では、児童文学における賢治受容の有りようを考察した。
11.山本有三編「日本少国民文庫」の成立について―『日本少国民新聞』の検討を中心に―	単	1999年11月	第38回　日本児童文学学会研究大会	戦時下における良心的出版物として評価の高い「日本少国民文庫」（山本有三編）は、新潮社より昭和10年11月に刊行開始となり、以後基本的に月に１冊のペースを保ちながら同12年8月に完結となった児童向叢書である。本発表は、これまで言及される機会の少なかった同叢書の成立について考察した。当時、叢書の付録として刊行された『日本少国民新聞』を具体的に検討することで、特に叢書刊行の推進力となった山本有三の動機に迫った。
12.山本有三編「日本少国民文庫」の成立と宮沢賢治―賢治評価の一端を探る―	単	1999年7月	第19回　兵庫教育大学言語表現学会	本発表は、昭和10年11月より刊行が開始された山本有三編「日本少国民文庫」の刊行動機について検討するとともに、加えて同叢書中の一編『人類の進歩につくした人々』に収録された賢治作品「雨ニモマケズ」と同書との相関を探り、賢治に対する同時代評の一端を明確にした。
13.槙本楠郎編『現代童話集』の成立と賢治童話	単	1996年10月	第35回　日本児童文学学会研究大会	賢治没後10カ月にしかならない昭和9年7月、『現代童話集』が刊行された。当時の児童文学界の理論的支柱、槙本楠郎編集によるこの童話集には、「なめとこ山の熊」が収録されている。賢治否定論者

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				の槙本が賢治童話を収録したのは、当時文圃堂版全集の編集に尽力していた草野心平と交友のあり、『銅鑼』同人でもあった土方定一の存在を抜きには考えられない。土方の賢治に関する覚え書きなどをもとに賢治収録の背景を明確にした。
14.宮沢賢治と児童出版史の関連研究―桜井書店［少年のための純文学選］の検討を手がかりに―	単	1996年6月	第79回　日本児童文学学会関西例会	戦後まもなく刊行された賢治童話集『カイロ団長』の成立から、戦後における賢治受容状況を明らかにした。本童話集は、［少年のための純文学選］という文壇作家中心で編まれたシリーズに収録されているが、そこに賢治童話が次第に評価され、市民権を確率していく過程の一端を見ることができるとした。
15.淡路呼潮の児童文学―探偵小説を中心に―	単	1995年11月	第34回　日本児童文学学会研究大会	児童文学の歴史において、これまで取りあげられることのなかった大衆児童文学作家の淡路呼潮の経歴、その児童文学の特質を彼の探偵小説を中心として明確にした。彼の経歴や児童文学との接点についてはこれまで不明とされてきたが、本発表によってその一端が明らかとなった。
16.戦後児童出版における宮沢賢治の一評価―桜井書店［少年のための純文学選］の検討を手がかりに―	単	1995年6月	第15回　兵庫教育大学言語表現学会	戦後における賢治童話の評価はますます多様化してくる。賢治は自らの童話を「心象スケッチ」としたが、この賢治のいう「心象スケッチ」が評価されてくるのは、戦後においても1960年代と推定される。この根拠を戦後刊行された賢治童話集とそのシリーズから考察した。
17.宮沢賢治と児童出版との関連研究の試み―戦後から1965年までの考察―	単	1994年11月	第33回　日本児童文学学会研究大会	戦後から1965年までに刊行された賢治童話集をすべて取りあげ、これら童話集に収録された賢治作品を年代別に検討・考察することによって、賢治童話出版史と社会、文学、教育史などとの連関性を指摘した。
18.宮沢賢治童話研究―日本書院［太陽と草の本］を中心に―	単	1993年3月	第70回　日本児童文学学会関西例会	戦後最も早く刊行された賢治童話集『やまなし』を取りあげ、この童話集を含むシリーズ全体を考察・検討して戦後における賢治童話展開の状況を明確にした。
19.宮沢賢治童話研究―戦中期受容史の一考察―	単	1992年9月	第69回　日本児童文学学会関西例会	当時の農民文学勃興の機運と、政府による児童文化保護の施策によって、戦中期における賢治は次第にその名が広がりつつあった。そうした中で児童映画・演劇による「風の又三郎」公演、あるいは羽田書店刊行の童話集『風の又三郎』は賢治童話を世に知らしめる原動力になり、その受容を推進させたが、こうした戦時下の享受の歴史を考察した。
20.宮沢賢治童話研究―胎動期の一考察―	単	1992年6月	第13回　兵庫教育大学言語表現学会	賢治が没して以後、無名作家時代を経て聖者的な農民文学作家、「雨ニモマケズ」に代表される詩人として評価を得るまでの変遷を、主に戦中期に刊行された童話集の解説文から考察した。
21.イーハトヴ童話集改題の試論―『山男の四月』から『注文の多い料理店へ』―	単	1991年11月	第65回　日本児童文学学会関西例会	賢治が生前刊行した唯一の童話集『注文の多い料理店』の表題が、出版構想当初は『山男の四月』であったことはよく知られている。表題だけでなく、作品の配列が刊行直前まで差し替えられるなど、賢治はこの童話集出版に多大の情熱を傾注した。本発表では、作品の配列、出版に際して作られた広告チラシ数種も視野におき、童話集収録の作品のテーマや特質から賢治が童話集全体に求めた基本構想について考察した。
３．総説				
1.編集者・山本有三の慧眼　―「日本少国民文庫」の意義と宮沢賢治―	単	2020年9月	三鷹市山本有三記念館館報　21号	日本の近代児童文化史に名を残す「日本少国民文庫」（新潮社）の検討を通して、編集者・山本有三の慧眼についてまとめたもの。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.宮沢賢治「雪渡り」を読み直す	単	2023年3月31日	大阪国際児童文学振興財団「オンライン講座「授業に役立つ！子どもの文学５つのレッスン」」	小学校の国語教科書に取り上げられることも多い作家・宮沢賢治を取り上げ、作品「雪渡り」を読み直すオンライン講座。
2.講演と対談「日本児童文学が宮沢賢治から受け取ったもの」	共	2023年3月21日	宮沢賢治学会地方セミナー・日本児童文学学会関西例	学会主催の講演会で、対談「童話作家・富安陽子さんに「賢治」を聞く」の聞き手を務め、作家の富安陽子さんと対談を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
3.講演と鼎談「国際児童文学館所蔵資料にみる絵本史にかがやく名著たち」	共	2022年12月11日	会 主催 ： 大阪国際児童文学振興財団 後援 ： 大阪府立中央図書館	
６．研究費の取得状況				
1.明治以降の絵葉書に見る児童文学・児童文化の研究―巖谷小波旧蔵資料の分析―	共	2024年4月～2027年3月	令和6～令和8年度科学研究費補助金取得、基盤研究(C) （研究分担者）	本研究は、日本の文学・文化・教育において、多大な影響力を持った巖谷小波所蔵の絵葉書を主要な資料としながら、明治から昭和前期における児童文学・児童文化史を研究するものである。巖谷國士氏所蔵の葉書類には、小波から家族宛ての絵葉書約300通とともに、日本国内外から小波に送られた約700通の絵葉書が含まれている。この資料からは、小波の子ども観、家族観がよみとれると同時に、小波を中心とする当時の児童文学、児童文化状況、それとかかわる出版文化、俳句文化を含む近代文学、教育、政治、経済など幅広いネットワーク状況を見ることができる。同時に、小波は、日本の絵葉書ブームの先駆者でもあり、日本屈指の絵葉書コレクターでもあった。絵葉書そのものの出自や絵の内容をみていくことは、児童文化史のみならず、一般の文化受容史研究の可能性もひらかれている。そこで、小波所蔵絵葉書をその内容と形態の両面から研究し、本研究プロジェクトで蓄積してきた研究と重ね合わせることで、明治期から昭和前期における児童文学・児童文化の状況を、領域横断的な視点で検討し、その今日的意義についても考察する。また、その成果を、文学館等での一般展示として公開して還元したい。
2.明治・大正期における児童文学・児童文化史の研究－巖谷小波未発表資料の検討を通して－	共	2020年4月～2023年3月	令和2～令和4年度科学研究費補助金取得、基盤研究(C)：20K00335 （研究分担者）	本研究は、日本の文学・文化・教育において、多大な影響力を持った巖谷小波を核として、小波の未発表資料を検討しながら、明治・大正期の児童文学・児童文化史を研究するものである。 小波の令孫・巖谷國士氏の自宅には、1000枚を超える葉書類が未発表・未整理のまま保存されている。この資料からは、小波の海外を含む足跡、および児童文化・児童文学のみでなく、近代文学、教育、政治、経済など幅広い人物との交流があったことがわかる。 そこで、未発表資料を整理・公開すると同時に、その資料を起点に、小波の活動やネットワークを解明し、本研究プロジェクトで蓄積してきた研究と重ね合わせることで、日本児童文学・児童文化がいかに小波の影響を受けて発展したのかを、領域横断的な視点で検討したいと考えた。
3.近代日本児童出版文化史の研究―実業之日本社の果たした役割	共	2017年～2019年度まで	平成29～31年度科学研究費補助金取得、基盤研究(C)：17K02488 （研究分担者）	明治の王国・博文館の出版文化を受け継ぎつつ、その牙城を崩した実業之日本社は、教育会と急速に接近して読者を獲得していった。その出版の全貌、教育との関わり、愛読者とのネットワーク、作家および編集者の役割など、様々な観点から同社を研究し、その児童文化としての内実を明らかにする研究。
4.近代日本児童出版文化史の研究－明治期における博文館出版文化の内容と特質－	共	2014年～2016年度まで	平成26～28年度科学研究費補助金取得、基盤研究(C)：26370222 （研究代表者）	明治期の出版社である博文館は、児童文化史上無視できない出版活動を行ったにも関わらず、児童文化分野での研究が殆どなされていない。よって、児童出版物の全貌、愛読者とのネットワーク、作家および編集者の役割など、様々な観点から同社を研究し、その児童文化としての内実を明らかにする。
5.明治・大正・昭和前期における児童出版文化史の研究－元博文館編集者の書簡調査から－	共	2011年～2013年度まで	平成23～25年度科学研究費補助金取得、基盤研究(C)：23520275 （研究分担者）	元博文館編集者の南部新一旧蔵資料には、作家や画家、編集者等から送られた多数の書簡が含まれている。本研究では、それら書簡の資料的価値を重視、精緻な調査を行うことによって日本の児童出版文化史の検証を行った。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2013年10月～現在	日本児童文学学会理事・評議員
2.2013年7月～現在	一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団理事
3.2007年10月～2011年9月	日本児童文学学会理事
4.2007年4月～2010年3月	箕面紙芝居コンクール審査委員
5.2000年4月～2010年3月	小学校国語教科書（大阪書籍）編集委員

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
6.1993年11月～現在	全国大学国語教育学会会員
7.1993年9月～現在	日本児童文学学会会員
8.1991年9月～現在	宮沢賢治学会会員（2022年9月～理事）